

④2 安満遺跡公園（高槻市八丁畷地区防災公園街区整備事業）

受賞機関 大阪府 高槻市
独立行政法人 都市再生機構 西日本支社

キーワード 歴史・環境資産を活用、民間活力の導入、地域防災力の向上

全建賞審査委員会の評価ポイント

安満遺跡公園の整備と運営の取組。幅広い意見を取り入れながら整備構想を策定し、歴史資産の保全、防災性の向上、子育て支援等の期待される各種機能を高いレベルで実現するよう整備・管理を実施したことが評価された。

1. はじめに

安満遺跡公園は、大阪府高槻市のJR高槻駅の東約1.0kmに位置し、甲子園球場5個分にあたる面積約22haの都市公園である。高槻市の中心部にある史跡安満遺跡（約2500年前の弥生時代の環濠集落跡等を含む国宝級の集落遺跡）と京都大学附属農場という歴史・環境資産を活かし、「市民と育てつづける公園」をコンセプトに構想策定及び整備を進め、令和元年3月の一次開園を経て令和3年3月に全面開園となった。広域避難地としての防災機能はもちろん、市民活動拠点や子育て支援機能の導入、民間活力の導入による賑わい創出等を実現した公園である。

2. 事業の概要

安満遺跡公園の内約8.7ha（防災公園約8.1ha、公共公益施設用地約0.6ha）はUR都市機構が防災公園街区整備事業として整備を行い、その北側の大学農場跡地を含めた一帯の約13.7haを高槻市が史跡事業により整備を進めた事業である。

高槻市は、公園、歴史、防災を専門とする学識経験者や市民によるワークショップ等で幅広い意見を取り入れながら整備構想を策定。UR都市機構もこの段階から参画し、一部区域はあえてつくりこまず、時代やニーズに合わせて柔軟に完成度を高められるハーフメイドエリアとしている。

公園全体の盛土による地下遺構の保護・保存、農場管理棟等を歴史体験施設や民活レストランとしてリノベーションし歴史拠点とするとともに、避難広場、耐震性貯水槽、防災倉庫、災害用ヘリポート、マンホールトイレ等の防災機能を整備した。あわせて、市民活動拠点となるパークセンター、民間活力導入による全天候型の子どもの遊び施設やカフェ等の整備も行い、隣接する公共公益施設用地に建設された「高槻子ども未来館」と一体で子育て支援拠点となる等、新たな市民文化醸成の拠点となっている。

また、市民メンバーによる「^{あまんどくらぶ}安満人倶楽部」による様々な活動が展開されており、ネーミングライツ及び市民の寄付を活用したサステナブルな運営管理が進められている。



計画平面図

3. 事業の成果

弥生時代の遺構と大学農場跡地を含む貴重な歴史・環境資産を活用することにより、SDGsに貢献する緑の空間の確保や地域防災力の向上を実現した。開園後、多くの親子連れで賑わい、多様な市民活動が繰り広げられる等、“市のシンボルとなる市民共有の公園を市民とともに育て続ける”ことが実践されている。



多くの市民が集い、多様なアクティビティが展開される空間

4. おわりに

現在、多様な主体で構成される「安満遺跡公園魅力アップミーティング」の活動を通じて、運営ルール見直し等公園運営の充実化が図られている。完成後も市民に使われ続ける、ハーフメイドの安満遺跡公園だからこそ、ニューノーマルに代表される時代のニーズにも柔軟に対応し、より一層のアクティビティの展開が期待される。

賛助会員 中央コンサルタンツ(株)